

市民参加型バス情報案内板の提案 —富士宮市「宮バス」の取り組みを事例として—

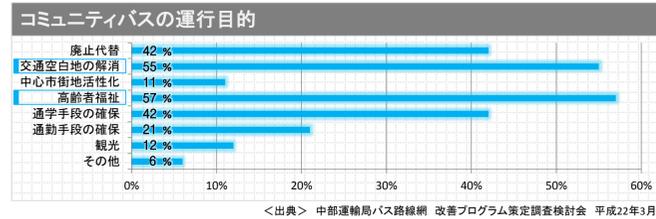
Proposal of information display monitor which can accept participation of citizens.
The case of challenge of MIYA-Bus by Fujinomiya city.

日本大学理工学部 交通まちづくり工房
木村嘉孝 渡部晃平 安田 峻 岸川宏一
坂口雄太郎 才川敬之 長谷川究 川口立貴

1. 背景と目的

コミュニティバスの目的

コミュニティバスは、路線バスの撤退した交通空白地域の移動の確保を図り、高齢者を中心とした移動制約者の方々の移動手段の確保を主な目的として運行している。



コミュニティバスの主な運行目的

交通空白地域の解消

移動制約者の救済

コミュニティバスの課題

利用者の低迷

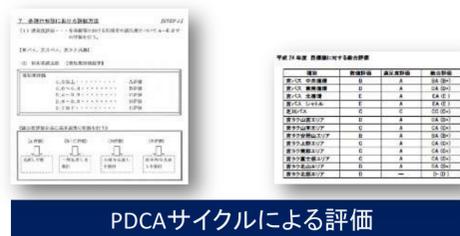
利便性の問題

採算性の問題

今回は... 富士宮市を走るコミュニティバス「宮バス」に着目する

2. 宮バスとは

静岡県富士宮市を走るコミュニティバスを指し、中心市街地の活性化と地域の生活交通を確保するために、バス停オーナー制度を用いた市街地循環バスである。2008年4月に運行を開始し、全6系統が市内を横断的に運行しているが6路線のうち目標達成路線は2路線に過ぎず、利用者増への取り組みが求められている。(PDCAサイクル評価により評価実施)



宮バスの活性化

移動制約者や一部地域住民利用者のみならず、市民参加型のバス情報案内版を設置することで、より多くの市民に利用されるコミュニティバスを目指す。

より身近な公共交通にすると共に情報を共有できるコミュニティ作りを目指す

富士宮市への提案

富士宮市に「市民参加型バス情報案内板(宮BAN)」を2012年5月の富士宮市地域公共交通活性化再生会議に提案し、導入が決定された。さらに、同年9月の市長定例記者会見の場で交通まちづくり工房からのコンセプトとデモの提案のプレス発表を行った。

実証実験は2012年10月より1ヶ月間とし、実験路線は宮2系統中央循環(外回り)とした。

4. 宮BANの実証実験結果

① 調査概要

宮BANの効果や問題点を抽出するため、実証実験を実施した。主な調査項目は以下の4つである。

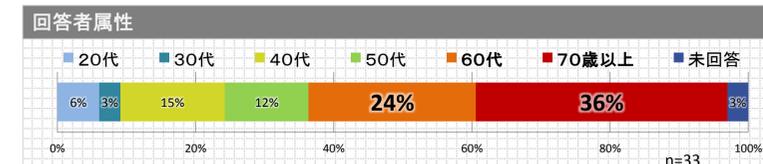
- ・操作方法やシステムの耐久性等の検証
- ・走行中における画像及び音声の認識のしやすさ
- ・バス停オーナー、利用者へのアンケート調査
- ・本運用時に掲載する市民参加型コンテンツの周知

期間 2012年10月1日から10月31日

場所 宮バス 宮2系統(中央循環外回り)のバス車内

② アンケートの集計結果

- バス停オーナー、利用者の双方で8割以上の方が導入に賛成
- 文字が小さいという意見
⇒ご年配の利用者の方が多いという実情があるため考慮する必要あり
- 黄色の字が見にくい
⇒黒線で囲って字を見やすくさせた



宮バス利用者の宮BANに対する意見 (一部抜粋)

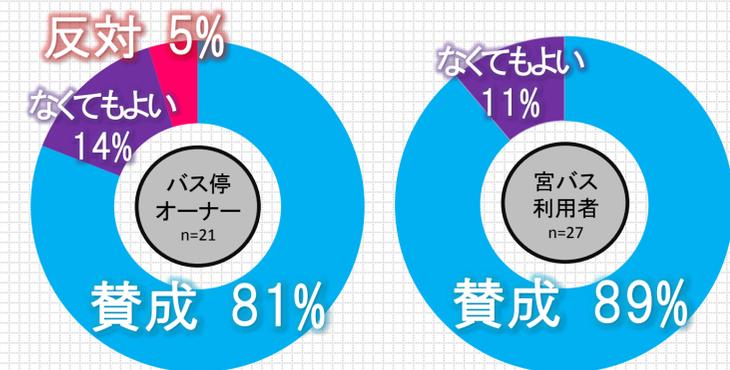
肯定的な意見

- ・耳に障害があるので助かった (40代・女性)
- ・文字の大きさやデザインもシンプルで見やすい (20代・女性)
- ・車内案内の声がしこくなくてよい (50代・女性)

肯定的でない意見

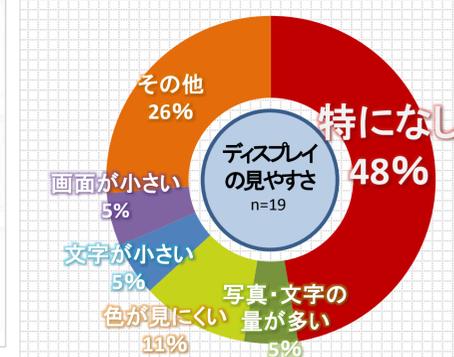
- ・目が悪いので文字を大きくしてほしい (40代・男性)
- ・色が見にくい(緑内障の方から)
- ・進行方向の矢印が分かりづらい (複数意見)

宮BAN導入の是非

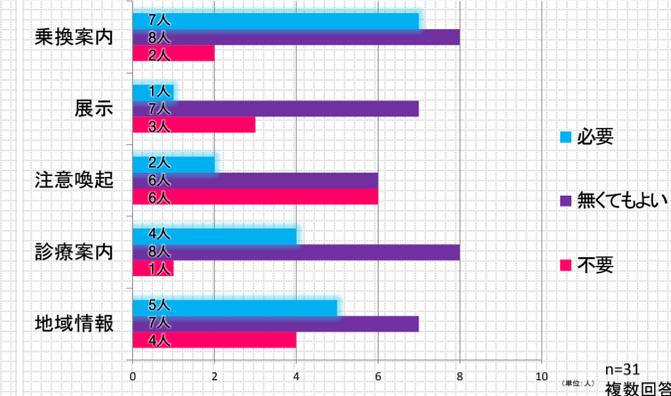


アンケート見本

宮BANディスプレイの見やすさ



コンテンツごとの必要度



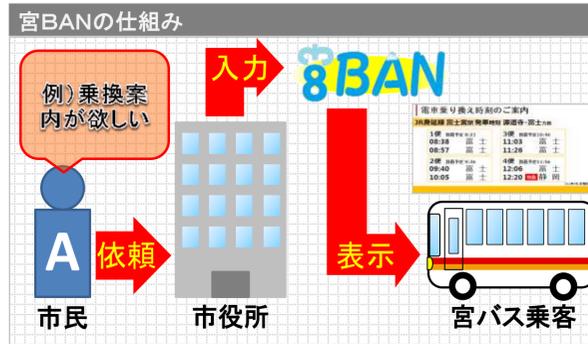
3. 宮BANの提案(市民参加型バス案内板)

① 宮BANについて

従来のバスは運行案内を中心とした案内が主流であった。そこで、車内ディスプレイを用いて、地域密着型のかわら版となる「宮BAN」を提案した。

「宮BAN」は「市民が作り上げる情報案内板」をコンセプトとし、行先案内以外に沿線施設や地域情報、市民が撮影、制作した写真・動画・絵画等の作品(コンテンツ)展示ができる。

最大の特徴は、コンテンツを市役所・市民・バス会社が一体となって制作できることである(最終決定は富士宮市)。また、Power Pointにより誰もが簡単に操作・制作でき、導入・運用費用も安価である。さらにハードディスク・ドライブ(HDD)をソリッド・ステート・ドライブ(SSD)にすることで耐久性にも優れている。また、機材についても市販品(一部加工品を含む)を使用しており、部品を交換することで異なるバスにも取り付け可能であり汎用性にも優れている。



② コンテンツ

「行先案内」「沿道施設案内」「注意喚起」「ご当地コンテンツ」の例

A. 行先案内
次のバス停留所の案内を表示

B. 沿道施設案内
病院の診療案内等を表示

C. 注意喚起
注意喚起は携帯・優先席・踏切等に関するものを表示

D. ご当地コンテンツ
ご当地コンテンツは写真や絵等の作品を表示



・コンテンツ初期のデザイン

・一人一人趣向を凝らした自由な作品が生まれた

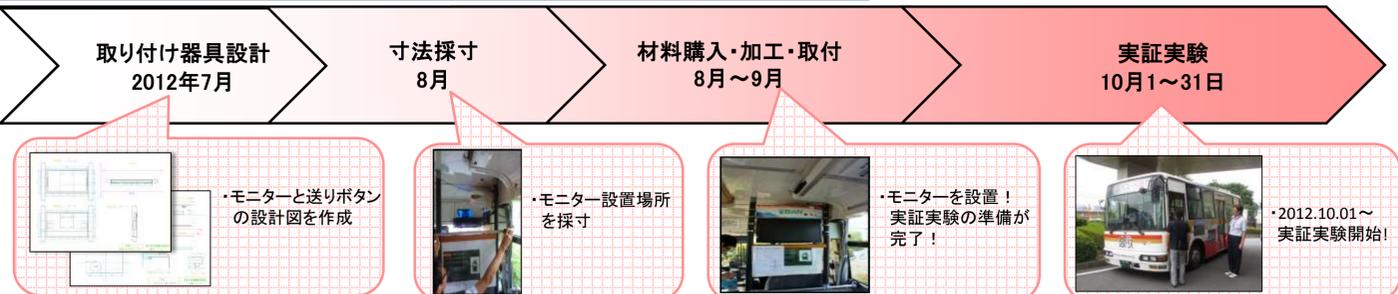
・公共交通活性化会議にて宮BANを提案中

・10月に実証実験の実施が決定!

・実証実験用案内デザインを決定!

・宮BAN告知コンテンツを追加

③ 機材の設置

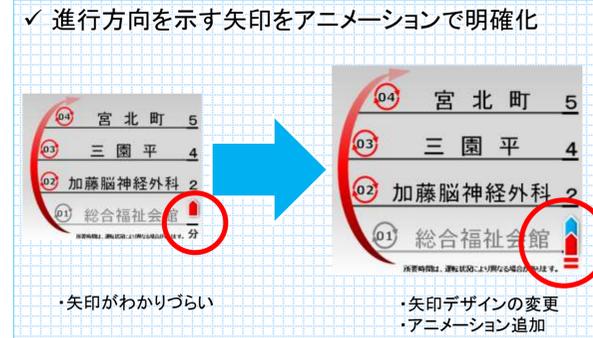


③ 実証実験を受けて

4つの調査項目に対する調査結果 ○:問題なし △:改善および検討の必要あり

種類	評価	対応
耐久性	○	SSDに換算したものを搭載
音声	△	ハウリングが発生したためオーディオミキサーを使用し抑制
見やすさ	△	緑内障等の方達が文字や図の色を見にくい様であったので文字の大きさに不満が見られたのでディスプレイの増設を検討
宮BAN周知	△	報道されたが、知っていたバス停オーナーは極少数だったため広範囲に周知させる方法を検討

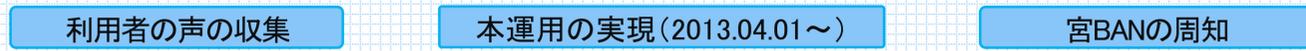
変更点



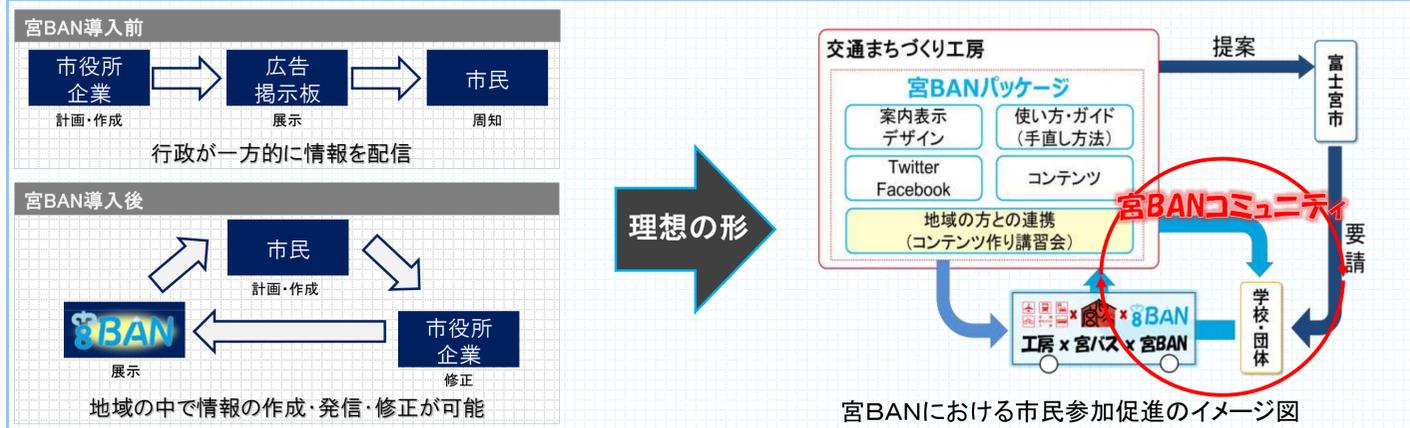
5. まとめと今後の展開

① まとめ

取り組みの成果



これまで行政が一方的に情報を発信していたが、今後は地域の中で情報を作り発信する。宮BANを活用して、積極的に市民参加を促す仕組みを提案していく。



② 今後の展開

Point 1 . 市民を宮BANコミュニティに取り込む!

- ・自治会等との連携並びにコンテンツ募集、掲載の体制作り

Point 2 . 工房×市役所で宮BANコミュニティの推進!

- ・他系統にも宮BANを展開

Point 3 . 宮BANシステムを全国のコミュニティバスへ!

- ・我孫子市のコミュニティバス「あびバス」でも実証運行中
- ・アンケート等の結果を反映

Point 1 + Point 2 + Point 3 =



我孫子市コミュニティバス「あびバス」 宮BANと同システムを用いた「ABIBAN」

宮BANシステムを用いた市民参加型バス情報案内板を
全国展開へ!!!